

☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

2月23日（月）

「自分の中にいるもう一人の自分」

講話 トライ学級担任 中安京子

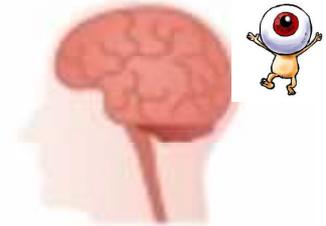


自分の中にもう一人の自分がいることを知っていますか。
「自分」には、「する自分」とそれを「見ている自分」がいます。頭の中にある「目」、この「目玉おやじ」みたいな「見ている自分」は、自分のやることすべてを見えています。

「おまえ、あのときずるいことしたよな」

「おまえ、あのとき全力じゃなかったよな、手を抜いたよな」

「おまえ、あのとき、人につられて本心じゃないことやったよな」



他人には分からなくても、いつも厳しい、中立な目で見ています。ごまかせません。だれでもずるいことをしたことやさぼったことはあると思います。それで、誰にも気づかれずにうまくいった！と思ったこともあったかもしれません。でも、知っていて覚えているのが、『自分の中にいるもう一人の自分』です。

もちろん、『自分の中にいるもう一人の自分』が覚えているのは悪いことばかりではありません。自分のがんばりも、報われなかった努力もよく見えています。

「おまえもなかなかよくやっているな」と、『自分の中にいるもう一人の自分』に認めてもらうことが大切なのです。これを、「自尊」と言います。みんなには、『自分の中にいるもう一人の自分』に尊敬してもらえるような生き方をしてほしいと思います。人に気づいてもらえなくても、人からほめられなくても、『自分の中のもう一人の自分』だけは、知っています。



ふれあい班対抗ドッジボール集会

25日（水）に、今年度最後のふれあい班の行事として、「ふれあい班対抗ドッジボール集会」を行いました。高学年は利き手と反対の手で投げるか両手でサッカーのスローインのように投げるといったルールを工夫し、1年から6年まで一緒にドッジボールを行えるようにしました。試合が始まると、取ったボールを低学年の子に渡して投げさせてあげたり、低学年にはゆるく投げたりと、あちこちで気遣った行動が見られました。この1年間のふれあい班活動の成果が表れていたように感じます。

